

# 【 玖 珠 町 】

## 平成31年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

### 1 調査結果の分析

#### 小学校：国語

- 正答数の分布を見ると、14設問中11問（正答率78.5%）以上の上位層の割合が47.8%で、全国平均より10ポイント程度上回っている。
- 設問別では、14問中14問とも全国平均を上回っている。県平均とは14問中12問が上回っている。
- 正答数6問以下（正答率50%未満）の割合が、10.6%であり、本町の学力向上に係る数値目標の一つである「学力調査において正答率50%未満の児童の割合を10%未満にする」をほぼ達成できた。
- 設問1の書く能力、設問2の読む能力、設問3の話す・聞く能力とも、全国平均及び県平均を10%以上と大きく上回った。

### 2 具体的な改善方策

#### 小学校：国語

#### 1 更なる基礎力の定着・向上のために

- ① 町で独自に作成した「学習語彙集」及び、「掲示用学習語彙カード」を有効に活用し、学習語彙の定着を図る。
- ② 読みの力を伸ばすため、目的に応じた読み方を身につけさせる授業づくりに取り組む。
- ③ 国語科の授業における系統的な指導を充実させる。
- ④ 国語科の授業だけでなく、学校挙げて組織的に取り組む体制をつくり、継続的に取り組む。
- ⑤ 各校に配置している新聞等を活用して、表現の違いによる読み手の受け取り方の違いを実感させる学習活動を仕組む。

# 平成31年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

## 1 調査結果の分析

### 小学校：算数

- 正答数分布グラフより、14問中11問（正答率78.5%）以上を見ると、町52.5%、全国41.9%、県42%である。上位層では、全国・県を10%以上上回っている。
- 設問別では、14設問中13問で全国平均・県平均を上回っている。
- 正答数6問以下（正答率50%未満）の割合が、9.8%であり、本町の学力向上に係る数値目標の一つである「学力調査において正答率50%未満の児童の割合を10%未満にする」を達成できた。
- 設問1の「数量と測定」、設問2の「数量関係」、設問3の「数と計算」は、正答率が大きく全国平均・県平均を上回った。

## 2 具体的な改善方策

### 小学校：算数

- 1 更なる基礎力の定着・向上のために
  - ① 指導事項を明確にした授業の更なる充実を図る。
  - ② 町独自で実施している算数確認テスト（年4回）に向けた継続的な取組及びその結果を生かした補充学習の充実を図る。
  - ③ 町確認テスト問題データベース（町内共有）の活用で定着を図る。
  - ④ 町で作成した「学習語彙集」及び、「掲示用学習語彙カード」を有効に活用し、算数科の学習語彙の定着を図る。
  - ⑤ 児童の思考過程が見えることを重視したノートづくりを進める。
  - ⑥ 問題データベースをあらゆる場面で活用する。

# 平成31年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

## 1 調査結果の分析

### 中学校：国語

- 正答数分布グラフより、10問中8問（正答率80%）以上の割合は、63.2%であり、全国平均（55.4%）・県平均（56.8%）を上回っている。
- 正答数4問以下（正答率50%未満）の割合が、9.2%であり、本町の学力向上に係る数値目標の一つである「学力調査において正答率50%未満の生徒の割合を20%未満にする」を達成することができている。
- 設問別では、10問中10問とも全国平均・県平均を上回っている。
- 「文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ」「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える」「封筒の書き方を理解して書く」「話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えを持つ」以上の設問では、正答率が全国平均・県平均を5～10%上回っている。

## 2 具体的な改善方策

### 中学校：国語

- 1 更なる基礎力の定着・向上のために
  - ① 指導事項を明確にした授業の充実を図る。
  - ② 学校挙げて「読む・書く」基礎技能（正確に読む・速く正確に書く等）の習熟を図る取組を継続する。
  - ③ 読みの力を更に伸ばすため、目的に応じた読み方を身につけさせる授業づくりに取り組む。
  - ④ 問題データベースをあらゆる場面で活用する。
  - ⑤ 基礎的事項の定着を図る家庭学習の課題を計画的に与え、習熟を図る。
  - ⑥ 教科部会を開催し、指導方法の交流を図る。
- 2 漢字や語句の定着のために
  - ① 国語科の授業における系統的な指導を充実させる。
  - ② 国語科の授業だけでなく、学校挙げて組織的に取り組む体制をつくり、継続的に取り組む。
  - ③ 漢字・語句に対する興味・関心を引き出し、伸ばす言語環境づくりに力を注ぐ。

# 平成31年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

## 1 調査結果の分析

### 中学校：数学

- 正答数の分布を見ると、16設問中13問（正答率81.2%）以上の割合は、町が33.0%であり、全国平均（32.7%）・県平均（30.5%）を上回っている。
- 設問別では、16設問中12問で全国平均・県平均を上回っている。特に「反比例の表から式を求める」「関係を表すグラフについて、座標の差を求める」「式やグラフを用いて求める方法を説明する」「事柄が成立する理由を説明する」等の設問の正答率が高い。
- 正答数7問以下（50%未満）の割合が、28.3%であり、本町の学力向上に係る数値目標の一つである「学力調査において正答率50%未満の生徒の割合を20%未満にする」を達成できなかった。正答率25%以上50%未満が多いため、数値目標には近い。
- 「確率を求める」「わかったことの根拠となる値として適切なものを選ぶ」の問題は全国・県の正答率と比較して6～10%ほど下回っている。

## 2 具体的な改善方策

### 中学校：数学

- 1 更なる基礎力の定着・向上のために
  - ① 指導事項を明確にした授業づくりを徹底する。
  - ② 町独自で実施している数学確認テスト（年4回）に向けた継続的な取組及びその結果を生かした補充学習の充実を図る。
  - ③ 問題データベースを活用する。
  - ④ 基礎的事項の定着を図る家庭学習の課題を計画的に与え、習熟を図る。
- 2 正答率50%未満の層を減らすために
  - ① 授業形態の工夫やドリルタイム等を通して、個別指導の充実を図る。
  - ② 町独自で実施している数学確認テスト（年4回）に向けた取組及びその結果を生かした補充学習の充実を図る。
  - ③ 町確認テスト問題データベース（町内共有）の活用で定着を図る。
  - ④ 教科部会を開催し、指導方法の交流を実施する。

# 平成31年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：英語）

## 1 調査結果の分析

### 中学校：英語

- 正答数分布グラフより、21問中16問（正答率76%）以上の割合は、町は16.5%で、全国（18.7%）・県（15.7%）であり、全国から2.2%下回っている。
- 正答数分布グラフより、21問中9問（正答率43%未満）以下の割合は、町が22.9%で全国（29.1%）県平均（29.1%）である。
- 領域別正答率で見ると、「聞くこと」「書くこと」は全国平均・県平均を上回っている。
- 設問別で、13問中8問で正答率が全国平均・県平均を上回っている。

## 2 具体的な改善方策

### 中学校：英語

- 1 更なる基礎力の定着・向上のために
  - ① 言語活動を通して付けたい力を明確にした授業づくり
  - ② 町独自で実施している英語確認テスト（年5回）に向けた取組及びその結果を生かした補充学習の充実を図る。
  - ③ 問題データベースを活用する。
  - ④ 基礎的事項の定着を図る家庭学習の課題を計画的に与え、習熟を図る。
- 2 正答率50%未満の層を減らすために
  - ① 授業形態の工夫やドリルタイム等を通して、個別指導の充実を図る。
  - ② 町独自で実施している英語確認テスト（年5回）に向けた継続的な取組及びその結果を生かした補充学習の充実を図る。
  - ③ 教科部会を開催し、指導方法の交流を実施する。

# 【 玖 珠 町 】

## 平成31年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

### 1 調査結果の概要

#### 児童質問紙

##### 【基本的生活習慣・自尊感情等に関すること】

- 「朝食を毎日食べていますか」に対して 96.8%が肯定的回答をしている。（全国は 95.3%）
- 自分によいところがあると肯定的に回答している児童は 86.1%で全国平均より 6 %高い。
- 先生はあなたのよいところを認めてくれると肯定的に回答している児童は 91.8%で全国平均より 5.7%高い。
- 地域行事に参加していると肯定的に回答した児童は、75.4%で全国平均より 7.4%高い。

##### 【学習習慣・授業等に関すること】

- 家で計画を立てて勉強している児童は、84.4%で全国平均より 12.9%高い。
- 読書は好きと肯定的に回答した児童は、89.3%で全国平均より 14.3%高い。
- 授業で学んだことを、ほかの学習に活かしていると肯定的に回答した児童は、86.8%で全国平均より 4 %高い。
- 算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていると回答した児童は、74.3%で、全国平均より 12.7%低くなっている。

#### 生徒質問紙

##### 【基本的生活習慣・自尊感情等に関すること】

- 「朝食を毎日食べていますか」に対して 95.4%が肯定的回答をしている。（全国は 93.1%）
- 自分によいところがあると肯定的に回答している生徒は 83.5%で全国平均より 9.4%高い。
- 先生はあなたのよいところを認めてくれると肯定的に回答している児童は 88.1%で全国平均より 6.6%高い。
- 地域行事に参加していると肯定的に回答した児童は、78.0%で全国平均より 27.4%高い。

##### 【学習習慣・授業等に関すること】

- 家で計画を立てて勉強している児童は、44.1%で全国平均より 6.3%低い。
- 読書は好きと肯定的に回答した児童は、70.7%で全国平均より 2.7%高い。
- 授業で学んだことを、ほかの学習に活かしていると肯定的に回答した児童は、77.1%で全国平均より 2.2%高い。
- 「国語の勉強は好きですか」など国語の授業に関する内容で全国平均より低くなっているものが多い。

## 2 玖珠町の児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

- 児童・生徒のほとんどが、基本的な生活習慣を身につけ、落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っていることが見てとれる。
- 小・中学校において、授業に対して前向きに取り組もうとする姿勢の回答が多く、先生方の「新大分スタンダード」を中心にした授業改善の取組が児童・生徒に実感として伝わっている。
- 自己肯定感（自己存在感）を持たせるために、授業や特別活動をはじめとして、学校の教育活動全体の中で、生徒指導の3機能を生かした取り組みの充実が必要である。また、家庭や地域との連携の充実を図ることによって、児童生徒の自己肯定感を高めていく必要がある。
- 家庭での時間の使い方について、児童生徒個々の実態を丁寧に把握し、家庭と連携しながら個別に指導することと併せて、学校挙げて家庭学習の習慣化や充実を図る取組（例：家庭学習の方法の指導、家庭学習の記録やチェックの工夫、計画的・意図的な家庭学習用の課題の提示、家庭学習強化週間の設定等）を行うことによって、家庭学習の質・量ともに向上させる必要がある。
- 学校における教育活動全体を通して、児童生徒個々の表現力を向上させる取組（例：表現する中身をもたせ、説明する場を設定した授業改善、行事等における表現の場の設定と丁寧な事前・事後指導等）を充実させること、また、互いの考えを聴き合い、認め合う学校・学級の風土を創り上げていくことによって、表現力の更なる向上を目指す必要がある。

# 【 玖 珠 町 】

## 平成31年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

### 1 調査結果の概要

#### 小・中学校：学校質問

本町においては、小学校（7校）と中学校（1校）合わせて調査対象学校数が8校と少ないため、単純に全国平均・県平均の割合と比較して特徴を述べることは難しい面があるが、主なものとして以下の点があげられる。

- 全体的に見ると、肯定的な回答をした学校の割合が県・全国を上回っている項目が多い。
- 全学校が、学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり検討を行っている。
- 学校運営の状況や課題についても、全教職員間で共通理解をし、組織的な取組ができている。
- 全学校が、全国学力学習状況調査の分析結果を学校全体で教育活動を改善するために活用している。

### 2 玖珠町の学校質問紙調査の結果をふまえて

ほとんどの町内小・中学校全校が各質問に対して肯定的な回答をしていること等から、各学校で知・徳・体バランスのとれた児童生徒の育成に向けて、組織的に取り組んでいることが見て取れる。今後の主な課題は、

#### 1 思考力・表現力の向上を目指した更なる授業改善

「新大分スタンダード」に基づく組織的な授業改善による授業の質の向上を目指し、児童・生徒自らが調べ、整理し、発表・交流する問題解決的な展開の授業を積極的に行う必要がある。その際、特に、児童・生徒個々の多様な考えを引き出す学習課題の設定とそれぞれの考えを比較・吟味する話し合い活動の質の向上に留意しなければならない。併せて、場面に応じたICTの効果的な活用も心がけておきたい。

#### 2 家庭学習の充実に向けた学校挙げての取組の強化

学校挙げて家庭学習の習慣化や充実を図る取組を行うことによって、家庭学習の質・量ともに向上させる必要がある。

#### 3 学校間の連携の強化

小中連携、また、小学校間の連携を深め、9年間を通して共通して指導する内容の焦点化や有効な指導方法の共有等を行うことによって、教職員の更なる指導力の向上を図りたい。